

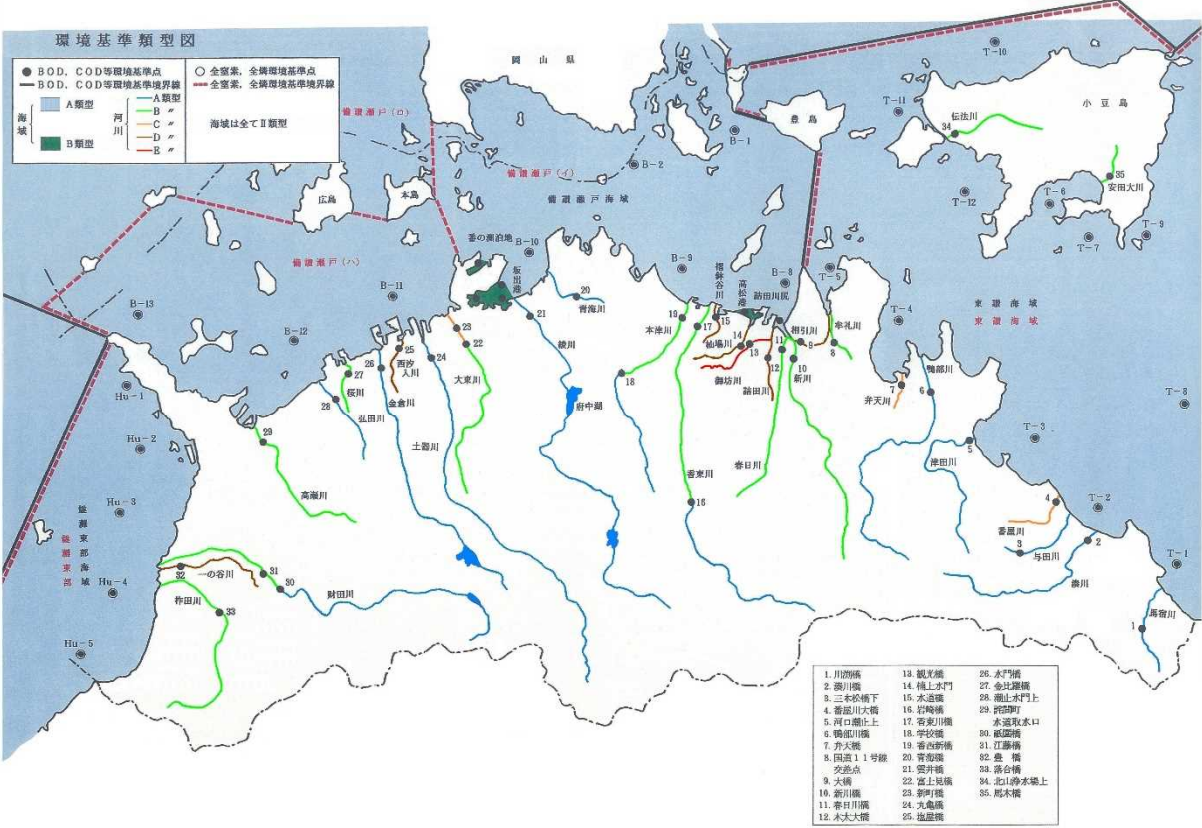
平成 30 年 8 月 22 日
中央環境審議会水環境部会
瀬戸内海環境保全小委員会資料

香川県における水環境と水産業の課題等

香川県環境森林部環境管理課長 小菘雅也

1 香川県海域の類型指定の状況

香川県では、海域を概ね東から東讃海域、備讃瀬戸、燧灘東部の 3 つに区分して類型し、監視を行っている。この水域のCODの環境基準は一部の港内を除き、A類型に指定されており、全窒素、全燐の環境基準はⅡ類型に指定されている。



2 香川県海域の水質の状況

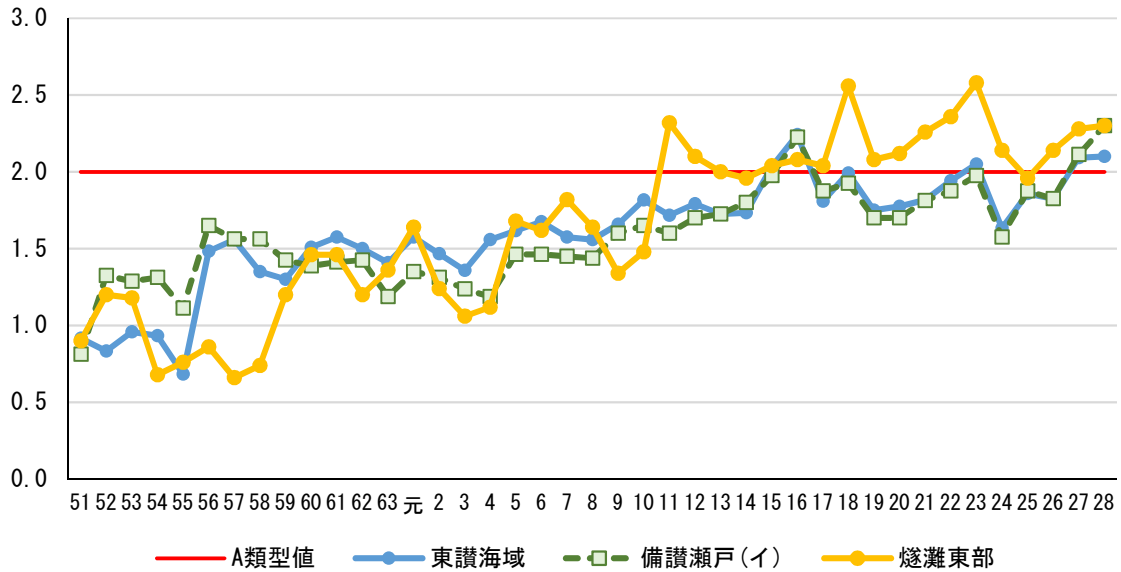
直近 28 年度データのデータによると、A類型に指定されている 3 つの水域においてCODの環境基準を超過している一方で、T-N、T-Pはすべての水域で環境基準に適合している。

2.1 香川県海域のCOD

CODは上昇傾向で、環境基準値を超過している。この原因については現時点では特定

できていない。

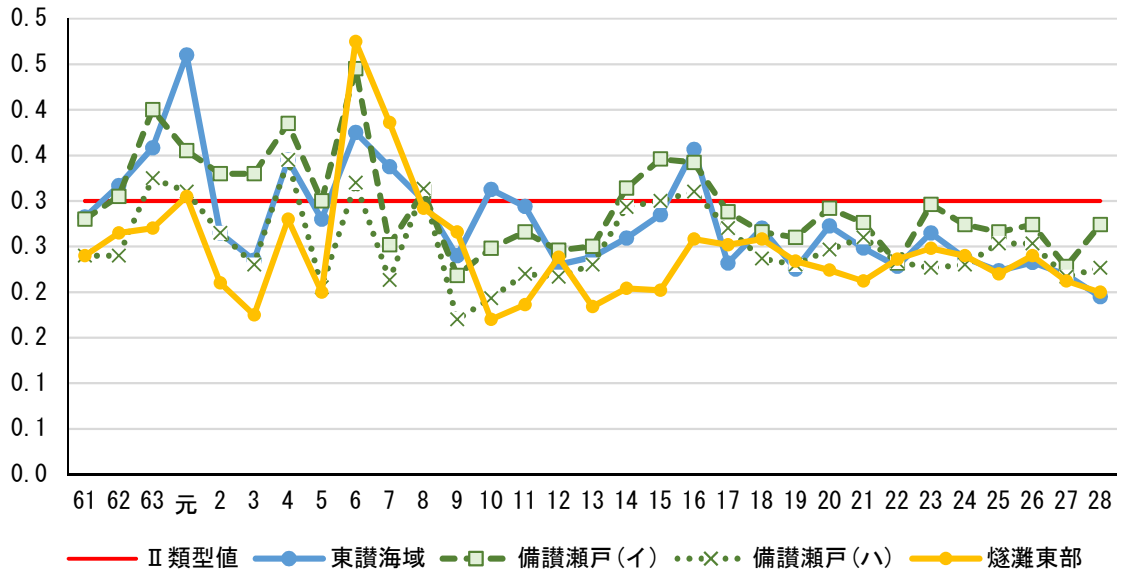
香川県海域のCOD（年平均値）の経年変化



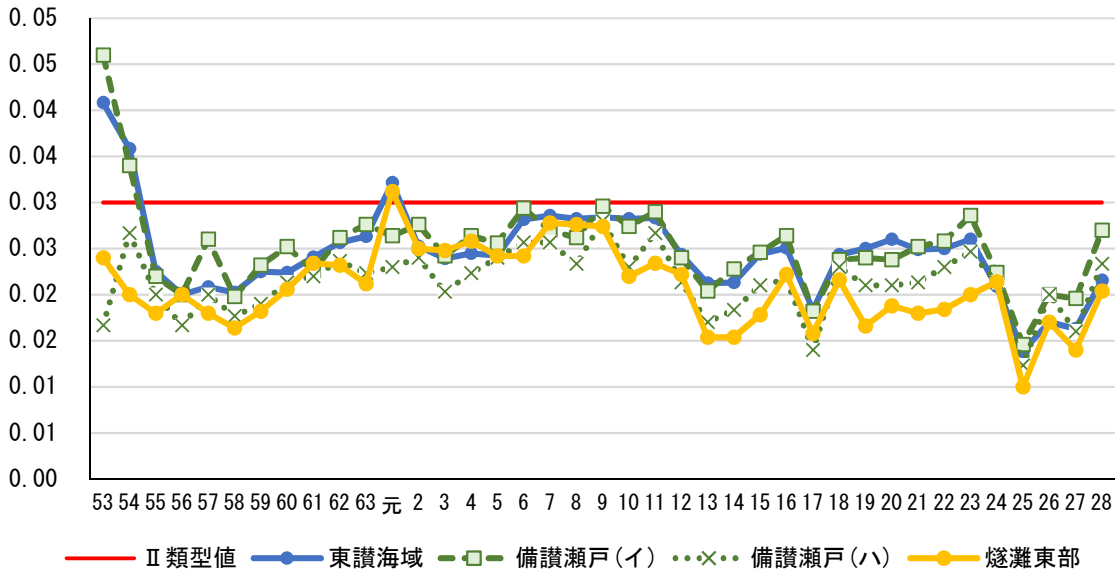
2.2 香川県海域のT-N、T-Pの状況

T-N, T-Pは横ばい傾向で、環境基準を若干下回る値で推移している。

香川県海域のT-N（年平均値）の経年変化



香川県海域のT-P（年平均値）の経年変化



3 香川県の水産の状況

香川県では海面漁業の外、海面養殖業が盛んであり、海面養殖ではブリ類やノリ等を生産している。

ハマチ養殖発祥の地である香川県では「ひけた鯛」、「なおしまハマチ」、「オリーブハマチ」を「ハマチ三兄弟」と名付け、香川ブランドと振興するなど、重要な特産品となっている。

また、秋から冬にかけて養殖されるノリについてもハマチと並んで重要な特産品となっている。



ハマチの給餌



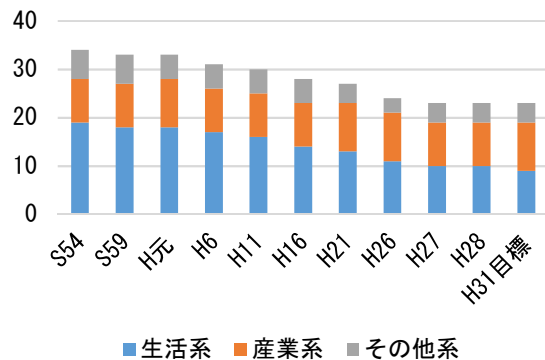
ノリ網の張り込み

4 これまでの対策

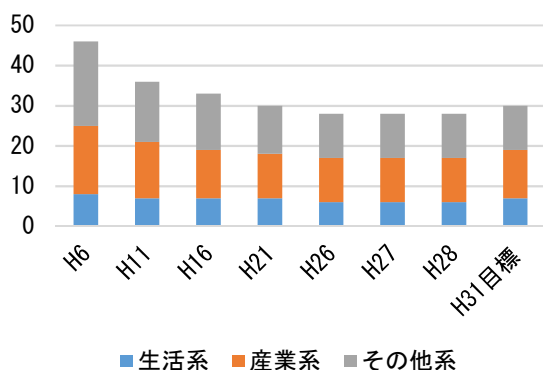
COD、窒素含有量、りん含有量については、総量削減計画を定め、削減してきた。

平成 29 年 6 月に策定した第 8 次計画では、窒素含有量、りん含有量を第 7 次計画と同値とし、従来の施策を継続して実施することにより、削減目標の達成を図ることとしている。

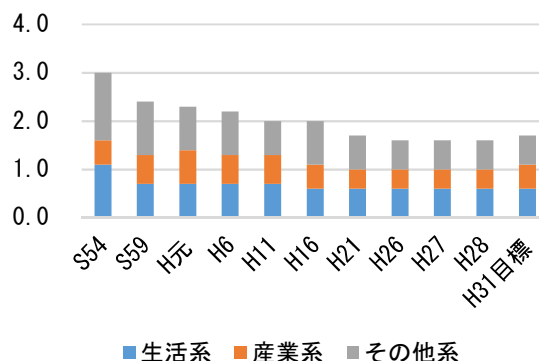
香川県の水質汚濁発生負荷量の推移 (COD)



香川県の水質汚濁発生負荷量の推移
(T-N)



香川県の水質汚濁発生負荷量の推移
(T-P)



5 今後の課題等

これまでの工場・事業場に対する規制強化や処理施設の整備等により、陸域から海域への栄養塩の流入が削減され、香川県海域は、水域の平均で見ると環境基準を若干下回るレベルで推移しており、環境基準に適合した水質が維持されている。

一方で、狭い水域で見ると、水産業の実施に必要な栄養塩が過不足なく供給されていない水域が存在する。具体的には、毎年10件前後の赤潮が発生するとともに、ノリの色落ちが発生するなど、「T-N、T-Pが環境基準に適合していること」と「海が適切に活用できる水質であること」が一致しない状態となっている。

今後は、環境基準に適合した水質を維持しつつ、狭い範囲で発生する「赤潮」や「ノリの色落ち」などに適切に対処することが課題となる。



正常なノリと色落ちしたノリ